

## 松木日向緑地プログラム 松木日向緑地の竹林整備

連携団体 ひなた緑地遊学会

2022年10月8日（土）

### 報告

#### 降雨の翌朝、竹林整備

10月8日(日)、「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地の竹林整備活動を行いました。

前日までは冷たい雨が強く降ったが、当日午前中、曇り空から晴れる天気、作業を進めるうちに、皆汗だくになり、タオルで汗を拭い、水分補給の休憩時間も十分に取りました。

「ひなた緑地遊学会」2名は10年以上この松木日向緑地の里山保全に携っており、2016年からは、本学地域ボランティアプログラム活動にご協力をいただいて来ました。

11名のメンバー学生は2グループに分かれて作業を行いました。竹林に日差しを入れることができるように間伐作業を行いました。2人1組になって、ノコギリで竹の節の間に「受け口」となる切れ目を入れます。続いて反対側の少し上の部分に「追い口」をノコギリで入れていくと、最初の切れ目の方に竹が倒れていきます。たまにノコギリが切れ目に挟まってしまうこともありましたが、概ねスムーズに、大きな切れ目が竹に入りました。竹が倒れていく前には、「倒れます！」と大声を出して、倒れる竹の下敷きにならないように注意を呼びかけました。倒れた竹は玉切りし、枝切りも行い、集積している箇所まで運びました。ノコギリを使っていないときは必ずケースにしまうなど、安全面も含め、基本事項は徹底しました。

#### 活動の様子



竹が倒れる際の声掛け「倒れます！」は重要



#### 今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

今回の間伐でかなり竹の切り株だけが残るスペースが生まれ、日差しが入るようになりました。春にはまたタケノコが生えてタケノコ掘りに適した場所になっていきます。今回切らずに残した竹の生えているエリアで今度は間伐をして、全体の竹林の竹の間隔を整え、整備していく予定です。

ひなた緑地遊学会の北出さんより、2020年の春以降活動を中断していたが、それ以前の整備が良かったので、良い整備状態が維持できているという話がありました。また、「都立大の校舎が立っている場所もさらに10メートルほどは高い丘陵であったのが削られた。江戸時代にはこの竹林の場所に人家が建ち、墓もあった痕跡が残っている。実際に墓石のあった区画は四角い石で囲われ、人家の土台跡の痕跡も認められた。人家があった場所でも何十年か放置されると荒れた竹林に変貌してしまった。」というような緑地の歴史も伺うことができました。

#### 参加者の声

- さほど太くはないが、一人で竹を1本切って、枝を落とし3～4本に切り分けることが出来た。
- 初めての人と一緒に活動を行い、どの方向に竹を落とすかということや切り方について説明も挟みながら活動を行った。去年の経験をもとにアドバイスを送れたのは成長点だと思った。
- 少しずつ竹を切るのが上達しているように感じた。
- 切る作業よりも、竹の倒れる方向を読む知識の重要性を感じた。竹が倒れる際の声掛けも非常に重要だ。
- 雨が降った翌日で、足元がおぼつかなく、危険を感じることもあった。
- 自分が教える立場になる前に、まずは自分自身が安全のためにしっかり学ぶ姿勢が必要だと感じた。